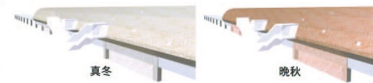


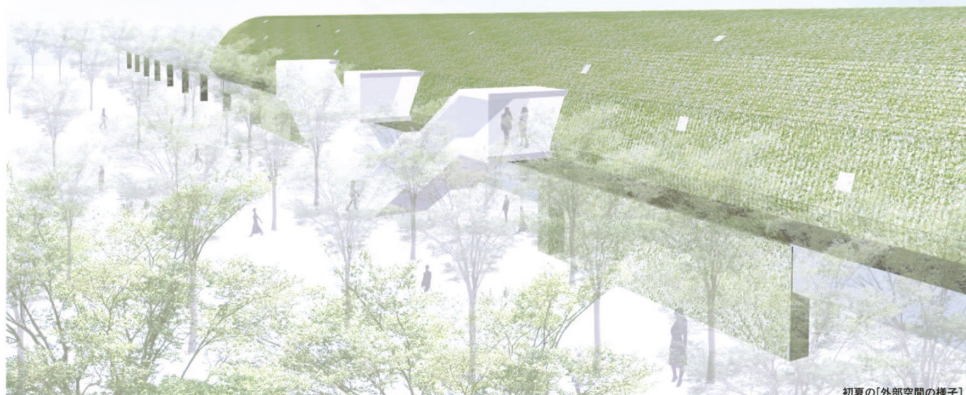
初夏の[内部空間の様子]



真冬

晩秋

1年を通してツル性植物が季節に応じた変化をすることで、建築自身も環境調節機能を備えることとなる。様々な透明度と色の変化をさせるため、季節の変化を伝えるような駅である。

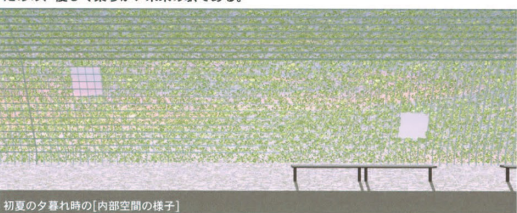


初夏の[外部空間の様子]

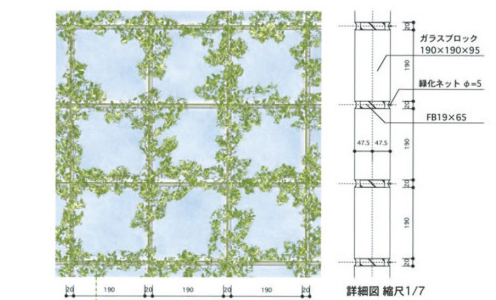
## 「ツタ／ガラスブロック」の駅



田園において、新しい駅ができることで便利で快適な新しい生活を送ることができるようになるが、反面、駅を中心とした市街地化による環境破壊や田園風景の破壊が生ずることとなる。そこで、私はツタ(つる性植物)とガラスブロックの素材の組み合わせによってできる、周辺環境に根ざした環境と人工物の緩衝帯としての駅を提案する。まず、構造材として210×210の間隔でフラットバーを組み、その間に、耐震性能を備えたガラスブロックをはめ込みガラスブロックの覆いを架ける。そして、ガラスブロックの目地にそって緑化ネットを被せる。そうすることで、ツタがガラスブロックの上を這い、数年後には全体がツタで覆われ、緑を纏った半透明のトンネルが姿を現すこととなる。「光を透過し、柔らかく、変化するガラスブロック」という一見矛盾するような性質を備えた新しいガラスブロックができる。レンガにツタが這っていくような、「人工物と自然の関係」をガラスブロックの透明性を保持した状態で獲得することができる。周辺環境をコントロールしながら、人工的要素が徐々に希薄になり、最終的には自然の中に溶け込んでいく。「ツタ／ガラスブロック」によってできる駅は、地球に知的に住まうための、優しく柔らかな未来の駅である。



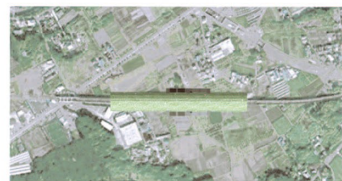
初夏の夕暮れ時の[内部空間の様子]



詳細図 縮尺1/7



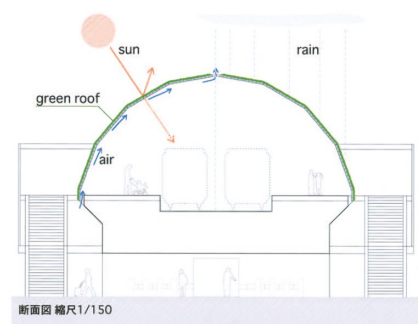
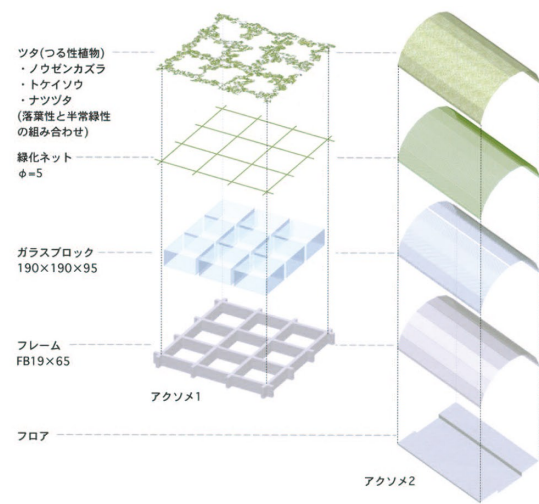
**特徴**  
 落葉つる性木本、付着根+垂つる型。初夏から秋に赤い花を鮮やかに咲かせる。  
 半常緑つる性木本、巻ひげ型。成長が早く、筒状のような花が美しい。  
 落葉つる性木本、付着根型。成長が早く秋の紅葉が美しい。



## 第14回空間デザイン・コンペティション 駅の未来をつくるガラスブロック

### 「季節の変化に応じた環境調整機能」

ツタとガラスブロックを組み合わせることで様々な補完関係が生まれる。ガラスブロック自身による防水、遮音、遮熱性能に加えてつる性植物が、季節に伴う葉の量を変化させることによって、内部空間に注ぐ日射量をコントロールすることができる。また、環境を調節しながら、1日の時間、天気、季節など様々なディメンションの変化に伴い空間と外皮が変化していく。周辺環境に根ざしたこのような変化は環境に対するインパクトを低減するだけでなく、人々の様々なアクティビティを喚起する。



立面図 縮尺1/300